

## 環境審議会（平成30年度第1回）顛末

日 時 平成30年11月21日（水）15時30分～16時30分

場 所 市役所大会議室

出席者 委員：高橋穰二、家次敬介、有澤 浩、市村英規、菅原義人、横井弘道、  
石川 芳、鎌田慶司、伊藤尚樹、佐藤里津江、竹森茂雄、跡部昇一、  
小川綾子、南部栄一（14名）  
（欠席委員）鎌田直人、佐々木恵理子、西野成紀（3名）

事務局：市民生活部長 山下俊明、環境課長 関根嘉津幸、  
環境係長 末松千幸、環境係 難波真美子

1. 開会（進行：関根）
2. 辞令交付 北市長より交付
3. 市長挨拶
4. 正副会長選任 会長 高橋穰二 副会長 家次敬介
5. 議事（議長：高橋委員）

（1）環境基本計画の進行管理について

※事務局（末松係長）より、事前配布資料1 環境白書について説明

跡部委員

白書⑨の地球温暖化対策について、今は温暖化だから霜が全く降らない状況である。また初雪が降るのが遅く富良野は108年振り、札幌は110年振りである。

高橋会長

今年は全国的に初雪が遅いと言われている。災害も50年に100年に一度の災害も頻繁に起き、災害規模も大きくなっているのは、温暖化だけの影響というのはやんちゃかもしれないが、対策として二酸化炭素排出抑制は、一人から始めるという意志のもとで、皆さんにもご協力願いたい。

有澤委員

④野生動物との共生と保護活動の推進について、ヒグマの駆除頭数の統計はないのか。

事務局

耕地林務課からの資料では29年度はヒグマの駆除8頭、出没情報は64件です。

有澤委員

ヒグマの駆除頭数は少なく感じるが、島牧村でも大問題になっており、富良野市でも人的被害は少ないが、農地被害は出ているので、今後も増える可能性もあるように思うので、統計数値を市民にお知らせすることも大事だと思う。

南部委員

①水環境の保全について、25年度の河川水質調査でBODの不検出が結構あるが、その

後不検出がなくなっているのは河川が汚染されているのではないか。分析が必要ではないのか。平成 29 年度の具体的な取組みで空知川水系 2 級河川（6 河川）の草刈りの実施が掲載されているが、草刈りは毎年やっていると思うが、今年載せたのは意味があるのか。

②持続可能な農地の保全と活用の具体的な取組みでメイドインフラノパワーアップセミナー 50 名参加とあるが、前年はメイドインフラノスタートアップフォーラム 150 名参加と 100 名も減っている理由は。

③森林の保全と育成で平成 29 年度の具体的な取組みで富良野岳原始ヶ原登山コース整備修繕の実施、湿地帯における植生復元作業の実施、市民登山会の実施が記載されているが、以前から毎年継続している事業が突然出てきたのは意味があるのか。

④野生動物との共生と保護活動の推進の平成 29 年度の具体的な取組みで山川草木を育てる集い富良野本部植樹祭への参加が白書に突然出てきたが、載せた理由が必要である。

⑨地球温暖化対策等の推進と実践のペレットストーブ購入補助事業の件数が 28 年以降延べ 34 基と同じ数字であり、28 年以降 1 基もやっていないということを説明に加えないと。太陽光発電システム補助事業にもいえる。

⑪市民、事業者、市の協働による自主的な活動の推進のふらの市民環境会議の主な取組みのふらのフリーマーケットの写真が昨年と同じである。

⑫幅広い世代への環境教育・環境学習の推進の平成 29 年度の具体的な取組みでふらの自然塾での環境学習の参加人数が載っていない。今までは参加人数の記載があるが、載せたり載せなかったりする理由の説明を付け加えないと新委員には分からない。

カップ麺のメーカーで紙製に見えるプラ容器をプラごみ袋で出したが、収集してもらえず残された者は嫌な思いをするので会社名が分かれば掴んで対応してもらわないと困る。

統計で減量化したような話をしているが、一人当たりのごみが増えているのはどういう訳か。

事務局

白書の記載内容に入れたり、入れなかったりは、環境課以外の担当部署から昨年の取組み状況を報告いただきそのまま載せているところもあり、今後環境課で精査していきたいと思っています。

ペレットストーブと太陽光の関係件数ですが、29 年 0 件、28 年太陽光のみ 1 件、27 年ペレットストーブのみ 8 件、26 年ペレットストーブ 5 件、太陽光 3 件となっています。

一人当たりのごみの排出量が増えている事ですが、人口、世帯数の変化、景気の左右により増減が出てきます。ここ数年はほぼ横ばいか微増であり、分別指導や啓発しながら減量化に取り組んでいるが、微増の変化は読み取れない部分があり、研究課題とさせて頂きたい。

## (2) その他

跡部委員

土別の方で環境会議に出席して、滝口国一郎前市長が全国表彰を受けており、富良野が先端を行っていると言ってきた。また土別は個別でごみ収集をしており、富良野市では

考えられないと発言してきた。

参考として、昭和 28 年 11 月 5 日から溶けては降って溶けては降って、そのまま根雪になったという年もあった。

菅原委員

川にごみを投げている人を複数回目撃している。不法投棄が実際に起きているので、パトロールなどを考えながら対策をやっていかないと不法投棄が起きる。

事務局

不法投棄の河川の場所により国や道と連携しながらやっている。不法投棄した人が特定できる場合は警察の案件となり、検挙となっていく対応となる。不法投棄を見かけた時は環境課に一報頂き、環境課で現地確認し対応、若しくは国や道と一緒に対応する形で処理して行く。現実、河川に農業用ビニールの不法投棄や暗くなってからの野焼きがあり、農林課と協議して、検挙とかされる前に事業者理解してもらって指導をしていきたい。

南部委員

西達布で農家同士のトラブルがあり警察沙汰になっている問題は、現在どうなっているのか。

事務局

農林課から聞き取りして調べたところ、平成 26 年夏頃、酪農家が西達布でデントコーン栽培とサイレーシ製造を始め、オープスタイルのバンカーサイロを建設した。道路を汚すなどしたため、近くの酪農家とトラブルになった。農林課等の立合で両者により複数回話し合いを重ね、ようやく平成 29 年春になって改善され解決に至った。今月中旬に環境課で現地調査したところ、バンカーに 6 割程詰込、滲汁発生なし、盛土で流出対策、サイレーシ臭なし、バンカーの下流にコンクリート柵と人口湿地の造成がされていた。今後大雨の時は流出させないように目を光らせていく。

南部委員

東山の方でも同じようなことがあったと思うが、廃業した農家と聞いているが、堆肥場から風向きでパークゴルフ場への臭いもあったが、綺麗にして廃業になっているのか。

事務局

現地確認して把握する。

南部委員

こういう問題が起きたら環境課と農林課のどちらに言えばすぐに解決して貰えるのか。ドッチボールしていて、確固とした答えを出して貰えなかったことが不満だったと聞いている。

事務局

畜産係の方では 2 年以上にわたって頻繁に指導や調整をやっていたことが聞き取り調査で分かった。今後、畜産でも環境でもいいので、情報共有して対応していく。

南部委員

10年もかかって解決するのではなく、スムーズに解決するようにしないとこじれて修復不能になった。

高橋会長

◎地球温暖化対策の推進でうちエコ診断について家次委員から説明をお願いします。

家次委員

うちエコ診断とは、CO<sup>2</sup>削減が一番の目標で、うちエコ診断士が家庭に行ったり、アンケートしたりしてエネルギーをどう使っているかを聞き取って診断し、最適なエネルギーの使い方をアドバイスして省エネをしていただく。

温暖化センターの専用診断ソフトを用いて、うちエコ診断結果レポートを作成して、各家庭にあった効果的な温暖化対策を提案して、取り組んでいただくというものです。

南部委員

環境白書の発行時に一年に一度だけの会議で、来年のこの時期まで会議がないのは不自然ではないか。

事務局

委員の知識は情報共有しながら高めていかなければいけないと考えている。

環境基本計画、環境白書の見方の問題、表現の仕方なども出てくるので、来年度に向けて会議の場も必要だが、実際に現場を見ることも大事だと思うので、検討させていただきたい。

6. 閉会